

## KT師重賞本命と見解【東海S・AJCC】

### 東海ステークス

中京ダート 1800m 重賞は湿ったダートかそうでないか？  
で傾向がかなり異なります。

まずは天気の前想から。

明日の中京は、雨予報も出ていますが、  
馬場状態にはさほど影響受けず。と予想します。

昨年圧勝したオーヴェルニュは、湿った中京でこそその馬。  
今年は乾いた馬場でパフォーマンスを下げてくださいたいものです。

大系統サンデー系×大系統ミスプロ系 or 米国型。その逆の組み合わせも好相性。

2017 年は 1-3 着独占。2018 年はモルトベーネが 6 番人気 3 着。

2019 年はチュウワウィザードが 2 着、スマハマが 3 着。

2020 年はアナザートウルースが 7 番人気 2 着。

本命はサンライズホープ。

母父がサンデー系の芝中距離 G1 血統スペシャルウィーク。

父が米国型のマジスティックウォリアー。

米国型とサンデー系で父と母父が組み合わせられている配合馬。当レースに向く配合。

前走は苦手な短縮。さらにペースの速い G1。今回は戸惑うことなく追走できるでしょう。

対抗ブルバアイリーデ。

当レースに相性の良いサンデー系×ミスプロ系の配合馬。

キンシャサノキセキで母系にはダートの名血ブライアンズタイム。  
カネヒキリに代表されるように、フジキセキ系は母系にダートの名血を入れれば、  
ダート中距離で強い馬も出ます。

また、キンシャサ産駒は適性を勘違いされて短距離を  
使われ続ける馬も多いのですが、ダート中距離ベストの馬も出る配合。

ブルベアはまさしく勘違いされた馬で 1800m 以上の出走は 3 回のみ。  
いずれも高いパフォーマンスで底も見せていません。

短縮が苦手な延長が得意。  
3 走前も延長で圧勝。前走は苦手な距離短縮。  
今回は延長。

3 番手グレートタイム。

父キングカメハメハ。  
湿っていない状態(良馬場)で日本独自の砂適性が問われれば、  
当コースに相性の良い種牡馬。先週までの傾向も父系であるキングマンボ系優勢。

グレートタイムは昨年同レースにも出走。  
その際は、雨が降る不良馬場。グレートタイムには不利な路盤。  
加えて外枠有利のレースで最内枠。

昨年の鞍上は福永騎手。超一流騎手ではありますが、  
砂競馬でグレートタイムを動かすだけの腕力、技術なら岩田 Jr も互角かそれ以上。

母はミラクルレジェント。女版カネヒキリ(父と母父系同じ)で、  
NAR の砂重賞を勝ちまくった馬。近親のローマンレジェンドも NAR の G1 勝ち馬。

当コースも良馬場でレコード勝ち。

母系からも湿っていない砂競馬のスケールは一流。

## アメリカジョッキークラブカップ

昨年未から年明けにかけて中山芝重賞では  
父系にキングズベストを持つ種牡馬の産駒が3勝。  
古馬混合重賞の勝ち馬は全て父欧州型。  
キングマンボ系に欧州要素を強く強化された血統馬がベスト。

本命はキングオブコースジ。

父がキングズベストと同じ欧州型でキングマンボ系のロードカナロア。  
母の血統適性を引き出しやすい種牡馬。

そして母父が欧州。特にイギリス、アイルランドのスーパーサイヤー、ガリレオ。

戦歴を見ても、短距離で走らず、キャリア重ねて長距離で開花は母の影響。

キングズベストに近いタイプの血統。  
今のキングズベスト優勢馬場はピッタリ。

闘争心溢れる欧州型で、馬群を瞬時に割れる状態で追走できる馬  
(欧州競馬は馬群を割る能力も重要)  
今の中山馬場で内枠も持ち味を存分に発揮できる状況。

ポタジエは消し。

非根幹距離の鬼ルージュバックの弟ですが、  
姉は父が非根幹距離の鬼マンハッタンカフェ産駒。

ポタジエは直線スピード能力を強化するディープ産駒&友道厩舎管理馬。

小回りよりも直線長いコース向き。非根幹距離より根幹距離向き。

オープンで出走したのは全て直線が長いコース。

今回はそのパフォーマンスは出せないと予想。

年末から年明けにかけての古馬混合重賞でも  
父か母父ディーピンパクトは連対なし。

相手本線は、オーソクレース。

母はタフな非根幹距離 G1 で高いパフォーマンスを発揮したマリアライト。  
父も欧州型。

先に書いたように母父ディーブは今の馬場では割引。  
ですが…主張の強いサドラーズウェルズを強化した配合。  
ディーブがスピードに乗らない馬場の方が得意なはず。

ボッケリーニは兄が宝塚記念勝ち馬ラブリデー。  
非根幹距離、初の 2200m も歓迎。  
ディーブについての見解を捨らないなら、対抗でも(ボクは 3 番手)